

【背景】

- ・2020 年『循環器病対策推進基本計画案』が閣議決定され、多職種連携し医療、介護、福祉を提供する地域包括ケアシステム構築の推進および**科学的根拠に基づく正しい情報提供**が求められています。
- ・『高齢心不全患者の診療に関するステートメント』では、包括的な生活機能評価において国際生活機能分類 ICF の活用を推奨しています。
- ・しかし、ICF はコーディングの煩雑さと評点の曖昧さのため臨床活用されていません。
- ・これまで、広島県心臓いきいき推進事業において、心臓リハビリテーション指導士と介護支援専門員を対象とした調査によって、高齢心不全の生活機能評価に必要な ICF コード 50 項目を選定してきました。
- ・今後は、臨床で医療・介護を包括する評価手法を確立し、実測データの収集により科学的根拠に基づく情報収集・提供体制を整備することが求められています。

【目的】

本研究では、循環器病患者の医療と介護を包括する ICF 評価手法を確立するため、各 ICF 項目と評価の妥当性を専門家パネルの意見によって検証することです。

この研究によって図 1 のように ICF を用いた循環型の情報共有とデータ集積を目指します。

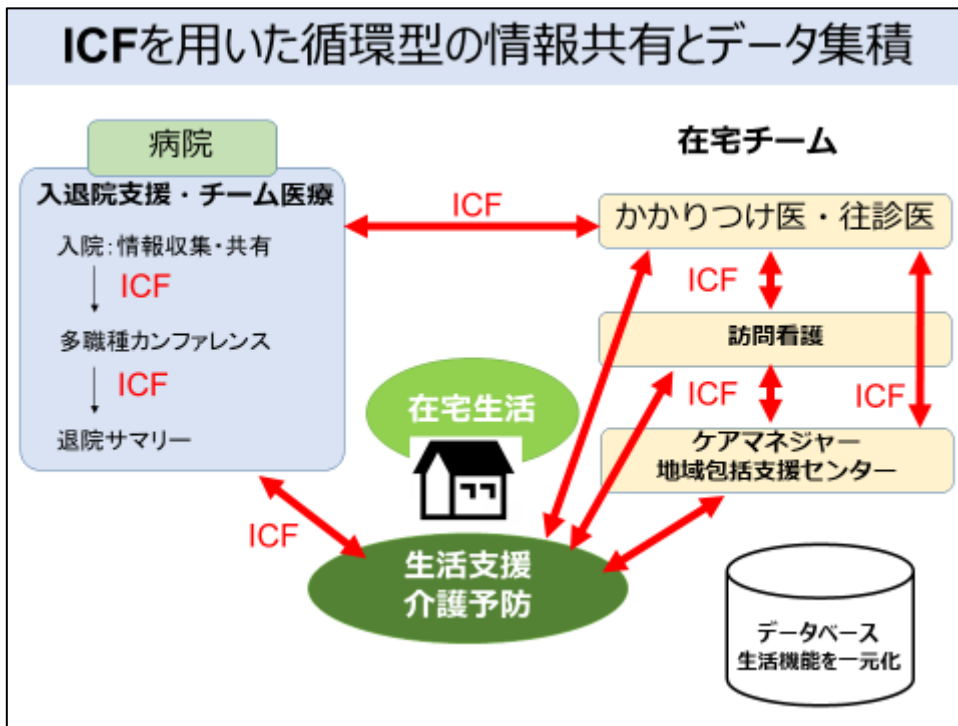


図 1：本研究事業で実現する情報収集・提供体制

資料：1 回目の ICF 評価手法の適切性に関するアンケート調査用紙

### 【方法】

Rand Delphi法を用いたGoogleフォームによるWebアンケート調査.

アンケート調査は2回を予定しています. 研究の流れは以下の通りです.

①研究班で循環器病患者の生活機能に必要となるICF評価手法を作成：

心臓リハビリテーション指導士・ケアマネジャーを対象としたアンケート調査，システムティックレビューをもとにICF項目に関連する評価バッテリーおよび評点の案を作成.

↓

②1回目のアンケート

研究説明会の際に行わせていただきます.

↓

③アンケート結果の共有，評価項目や評価バッテリー，評点の修正，追加の評価手法の作成

↓

④2回目のアンケート

↓

⑤妥当性の高い評価手法を決定

○皆様にご協力いただくこと

(1) 各評価手法の適切性を、1（非常に不適切）～9（非常に適切）の9段階で評価をお願いします。

(目安は、1-3:適切とはいえない、4-6：どちらともいえない、7-9：適切である)

アンケートの点数が中央値で7以上の指標を最終的に適切と判断し評価手法を決定します

(2) 各評価手法の説明・表現の修正や評価バッテリー，評点について意見がありましたら，ご提案をお願いします。ここにはない指標で重要と思われる指標がありましたら御提案をお願いします

○留意点

・質問は全部で43個あります。回答には最大で1時間程度お時間をいただきます。

・一回送信した後でも、解答の修正は可能です（お時間がない場合は、途中でアンケート結果を送信して後から追加で回答いただくことも可能です）

・わずかながら謝礼を用意しております。2回目のアンケートに回答された後，送付させていただきます。

### 基本的な採点ルール

各項目の説明文と採点の目安を参照し、以下のように 0 から 4 点で採点してください。

- |                      |  |
|----------------------|--|
| 0：問題なし               |  |
| 1：軽度の問題              | 問題が存在するが、日常の活動に支障がない程度であることなど          |
| 2：中等度の問題             | 1 の範囲を超えるが、問題を総合的に考慮すると部分的な問題にとどまることなど |
| 3：重度の問題              | 問題を総合的に考慮して重大な問題が存在することなど              |
| 4：完全な問題              | 完全な問題が存在することなど                         |
| *部分と重大：健常の機能の半分程度が目安 |  |

I. 基本情報

1. メールアドレス

2. 氏名

3. 職種

以下の項目から選択して, を記入してください.

医師 歯科医師 看護師 薬剤師 理学療法士 作業療法士

言語聴覚士 管理栄養士 社会福祉士 介護支援専門員

4. 所属施設

5. 施設種別

以下の項目から選択して, を記入してください.

急性期病院 回復期病院 療養病院 診療所・クリニック

訪問看護ステーション 介護老人保健施設 地域包括支援センター

その他 ( )

## II. ICF 項目のアンケート調査

### 心身機能

#### b110 意識機能

##### 1. ICF 項目の説明と採点の目安

ICF 項目	b110 意識機能 (覚醒状態の明瞭度、連続性、質を含めた全般的な精神機能)	
採点の目安	0 問題なし	意識機能における問題がない
	1 軽度の問題	意識機能における問題が存在するが、日常の活動に支障がない程度である
	2 中等度の問題：	1 の範囲を超える意識機能の問題が存在するが、部分的な問題（50%未満）にとどまる
	3 重度の問題：	意識機能において、重大な問題（50%以上）が存在する
	4 完全な問題：	意識機能において、完全な問題、例えば昏睡といった問題が存在する
	※せん妄など意識のムラがある場合は、悪い状態を採点する。	

##### 2. 採点の目安の妥当性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

##### 3. 採点基準の例

ICF 評点	0	1	2	3	4
JCS: Japan Coma Scale	0	I -1~3	II -10~30	III -100~200	III -300

##### 4. 採点基準の適切性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

##### 5. ICF 項目の説明・表現の修正や採点基準となる評価手法、評点について意見がありましたら、ご提案をお願いします。

【参考資料】

JCS : Japan Coma Scale

I : 刺激しないでも覚醒している状態	
0	意識清明
I -1	ほぼ意識清明だが、はっきりしない
I -2	見当識障害がある（場所、時間、日付がわからない）
I -3	自分の名前、生年月日が言えない
II : 刺激で覚醒するが、刺激をやめると眠り込む状態	
II -10	普通の呼びかけで容易に開眼する
II -20	大きな声または体を揺さぶることにより開眼する
II -30	痛み刺激を加えつつ呼びかけを繰り返すことにより開眼する
III : 刺激しても開眼しない状態	
III -100	痛み刺激に対し、払いのける動作をする
III -200	痛み刺激に対し、少し手足を動かしたり、顔をしかめたりする
III -300	痛み刺激に反応しない

## b114 見当識機能

### 1. ICF 項目の説明と採点の目安

ICF 項目	b114 見当識機能 (時間、場所、自分や他者との関係を認識して確かめる全般的精神機能)
採点の目安	<p>0 問題なし           見当識機能における問題がない</p> <p>1 軽度の問題        見当識機能における問題が存在するが、日常の活動に支障がない程度である</p> <p>2 中等度の問題：   1 の範囲を超える見当識機能の問題が存在するが、部分的な問題(50%未満)にとどまる</p> <p>3 重度の問題：       見当識機能において、重大な問題(50%以上)が存在する</p> <p>4 完全な問題：       見当識機能において、完全な問題がある。</p> <p>※時間・場所・人の見当識機能のうち、最も障害されている見当識機能を採点する。</p>

### 2. 採点の目安の妥当性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

### 3. 採点基準の例

ICF 評点	0	1	2	3	4
MMSE 時間見当識	5	4	3	2	1~0
MMSE 場所見当識	5	4	3	2	1~0

### 4. 採点基準の適切性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

### 5. ICF 項目の説明・表現の修正や採点基準となる評価手法、評点について意見がありましたら、ご提案をお願いします。

資料：1 回目の ICF 評価手法の適切性に関するアンケート調査用紙

【参考資料】

MMSE : Mini-Mental State Examination

見当識項目：時間

質問	スコア
今年は何年ですか？	/1
今の季節は何ですか？	/1
今日は何曜日ですか？	/1
今日は何月ですか？	/1
今日は何日ですか？	/1
合計	/5

見当識項目：場所

質問	スコア
ここは何県ですか？	/1
ここは何市ですか？	/1
この病院の名前は何ですか？	/1
ここは何階ですか？	/1
ここは何地方ですか？（例：関東地方など）	/1
合計	/5

【根拠となる文献】

De Vriendt P. Gorus E. Bautmans I. Mets T: Conversion of the Mini-Mental State Examination to the International Classification of Functioning, Disability and Health Terminology and Scoring System. Gerontology 2012;58:112–119. [doi.org/10.1159/000330088](https://doi.org/10.1159/000330088)



## **b126 気質と人格の機能**

### **1. ICF 項目の説明と採点の目安**

ICF 項目	b126 気質と人格の機能 (個々人の持つ生来の素質や性格に関する精神機能。例えば、過度に楽観的や心配性、慎重さや無責任さ、無頓着、短気、自己否定、反社会性など)	
採点の目安	0 問題なし	気質と人格の機能における問題がない
	1 軽度の問題	気質と人格の機能における問題が存在するが、日常の活動に支障がない程度である
	2 中等度の問題：	1 の範囲を超える気質と人格の機能の問題が存在するが、部分的な問題(50%未満)にとどまる
	3 重度の問題：	気質と人格の機能において、重大な問題(50%以上)が存在する
	4 完全な問題：	気質と人格の機能において、完全な問題がある。
	※他の精神機能、例えば活力と欲動の機能や情動機能の問題はここでは採点対象としない。	

### **2. 採点の目安の妥当性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください**

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

### **3. ICF 項目の説明・表現の修正や採点基準となる評価手法、評点について意見がありましたら、ご提案をお願いします。**

## b130 活力と欲動の機能

### 1. ICF 項目の説明と採点の目安

ICF 項目	b130 活力と欲動の機能 (自発的な生活を達成する精神機能)
採点の目安	<p>0 問題なし                    活力と欲動の機能における問題がない</p> <p>1 軽度の問題                活力と欲動の機能における問題が存在するが、日常の活動に支障がない程度である</p> <p>2 中等度の問題：        1 の範囲を超える活力と欲動の機能の問題が存在するが、部分的な問題(50%未満)にとどまる</p> <p>3 重度の問題：            活力と欲動の機能において、重大な問題(50%以上)が存在する</p> <p>4 完全な問題：            活力と欲動の機能において、完全な問題、例えば例えばモチベーションや食欲がまったくないといった問題、が存在する</p> <p>※モチベーションの欠如や食欲不振といった、活力と欲動の機能における問題の程度と頻度を考慮に入れて採点する。</p> <p>※機能そのものを採点対象とし、派生する活動や参加の問題はここでは採点対象としない。</p>

### 2. 採点の目安の妥当性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

### 3. 採点基準の例

ICF 評点	0	1	2	3	4
Vitality Index 合計	10	9-7	6-4	3-1	0

### 4. 採点基準の適切性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

### 5. ICF 項目の説明・表現の修正や採点基準となる評価手法、評点について意見がありましたら、ご提案をお願いします。

【参考資料】

Vitality Index

1. 起床 (Wake up)	
いつも定時に起床している	2
起こさないと起床しないことがある	1
自分から起床することはない	0
2. 意思疎通 (Communication)	
自分から挨拶する、話し掛ける	2
挨拶、呼びかけに対して返答や笑顔がみられる	1
反応がない	0
3. 食事 (Feeding)	
自分から進んで食べようとする	2
促されると食べようとする	1
食事に関心がない、全く食べようとしない	0
4. 排泄 (On and Off Toilet)	
いつも自ら便意尿意を伝える、あるいは自分で 排尿、排便を行う	2
時々、尿意便意を伝える	1
排泄に全く関心がない	0
5. リハビリ・活動 (Rehabilitation, Activity)	
自らリハビリに向かう、活動を求める	2
促されて向かう	1
拒否、無関心	0
合計	/10

除外規定：意識障害、高度の臓器障害、急性疾患（肺炎など発熱）

Kenji Toba, Ryuhei Nakai, Masahiro Akishita et al: Vitality Index as a useful tool to assess elderly with dementia. Geriatr Gerontol Int 2002; 2: 23-9.

**b134 睡眠機能**

**1. ICF 項目の説明と採点の目安**

ICF 項目	b134 睡眠機能 (必要十分な睡眠)	
採点の目安	0 問題なし	睡眠機能における問題がない
	1 軽度の問題	睡眠機能における問題が存在するが、日常の活動に支障がない程度である
	2 中等度の問題：	1 の範囲を超える睡眠機能の問題が存在するが、部分的な問題（50%未満）にとどまる
	3 重度の問題：	睡眠機能において、重大な問題（50%以上）が存在する
	4 完全な問題：	睡眠機能において、完全な問題、例えば全く寝られなかったり、完全な昼夜逆転などが常にみられている。
	※不十分な睡眠や昼夜逆転といった睡眠機能における問題の程度と頻度を考慮に入れて採点する。	
	※機能そのものを採点対象とし、派生する活動や参加の問題はここでは採点対象としない。	

**2. 採点の目安の妥当性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください**

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

**3. ICF 項目の説明・表現の修正や採点基準となる評価手法，評点について意見がありましたら，ご提案をお願いします。**

## b164 高次認知機能

### 1. ICF 項目の説明と採点の目安

ICF 項目	b164 高次認知機能機能 (前頭葉機能、しばしば実行機能と呼ばれる。意思決定、抽象的思考、計画の立案と実行、精神的柔軟性、判断、問題解決といった複雑な目標指向性行動を含む。)
採点の目安	<p>0 問題なし            高次認知機能における問題がない</p> <p>1 軽度の問題            高次認知機能における問題が存在するが、日常の活動に支障がない程度である</p> <p>2 中等度の問題：        1 の範囲を超える高次認知機能の問題が存在するが、部分的な問題（50%未満）にとどまる</p> <p>3 重度の問題：            高次認知機能において、重大な問題（50%以上）が存在する</p> <p>4 完全な問題：            高次認知機能において、完全な問題が存在する。</p> <p>※抽象化や柔軟性、計画立案が困難といった、高次認知機能における問題の程度と頻度を考慮に入れて採点する。</p> <p>※機能そのものを採点対象とし、派生する活動や参加の問題はここでは採点対象としない。</p>

### 2. 採点の目安の妥当性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

### 3. 採点基準の例

ICF 評点	0	1	2	3	4
FAB 合計	18-16	15-14	13-9	8-5	4-0

### 4. 採点基準の適切性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

### 5. ICF 項目の説明・表現の修正や採点基準となる評価手法、評点について意見がありましたら、ご提案をお願いします。

【参考資料】

Frontal Assessment Battery : FAB

1. 概念化：以下の言葉の似ているところを教えてください		
バナナとみかん	【果物】	1
テーブルといす	【家具】	1
チューリップとバラと菊	【花】	1
2. 知的柔軟性：『か』のつく言葉をできるだけ多く教えてください（人名・地名以外）		
10 語以上		3
6 語以上		2
3 語以上		1
2 語以下		0
3. 行動プログラミング：利き手でマネをしてください（グー・手刀・パー）		
ひとりで連続動作を 6 回以上できたとき		3
ひとりで連続動作を 3 回以上できたとき		2
一人ではできないがテスターと一緒に連続動作を 3 回できたとき		1
それ以外		0
4. 葛藤指示：1 回⇒2 回, 2 回⇒1 回, (1-1-2-1-2-2-2-1-1-2)		
失敗なし		3
失敗 2 回まで		2
失敗 3 回以上		1
テスターと同じ回数指でタップしてしまうことが続けて 4 回以上ある 全くたたかない、全て 1 回(2 回)たく、ただたたいている		0
5. Go/No-Go：1 回⇒1 回, 2 回⇒0 回, (1-1-2-1-2-2-2-1-1-2)		
失敗なし		3
失敗 2 回まで		2
失敗 3 回以上		1
テスターと同じ回数指でタップしてしまうことが続けて 4 回以上ある 全くたたかない、全て 1 回(2 回)たく、ただたたいている		0
6. 把握反射：手のひらを上にして両手を机の上ののせてください⇒手をのせる		
被験者がテスターの手を握らなかった場合		3
被験者が躊躇して、どうしたらよいのか聞いた場合		2
被験者が躊躇せずにテスターの手を握った場合		1
注意されたあとにもテスターの手を握った場合		0
	合計	/18

Giardini A, Vitacca M, Pedretti R, Nardone A, Chiovato L, Spanevello A.: Linking the ICF codes to clinical real-life assessments: the challenge of the transition from theory to practice.

G Ital Med Lav Ergon. 2019 May;41(2):78-104. Italian. PMID: 31170337

**b280 痛みの機能**

**1. ICF 項目の説明と採点の目安**

ICF 項目	b280 痛みの機能 (痛みの存在。)	
採点の目安	0 問題なし	痛みの問題が全くない
	1 軽度の問題	痛みの問題が存在するが、日常の活動に支障がない程度である
	2 中等度の問題：	1 の範囲を超える痛みの問題が存在するが、部分的な問題（50%未満）にとどまる
	3 重度の問題：	痛みにおいて、重大な問題（50%以上）が存在する
	4 完全な問題：	痛みに完全な問題がある。例えば、今まで経験したことがない程の強い痛みがある。
	※痛みの問題の程度と頻度を考慮に入れて採点する。	
	※機能そのものを採点対象とし、派生する活動や参加の問題はここでは採点対象としない。	

**2. 採点の目安の妥当性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください**

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

**3. 採点基準の例**

ICF 評点	0	1	2	3	4
NRS 合計	0	1-3	4-6	7-9	10

**4. 採点基準の適切性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください**

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

**5. ICF 項目の説明・表現の修正や採点基準となる評価手法，評点について意見がありましたら，ご提案をお願いします。**

資料：1 回目の ICF 評価手法の適切性に関するアンケート調査用紙

**【参考資料】**

**NRS : Numerical Rating Scale**

「今まで経験した一番強い痛みを 10 として、今の痛みはどれくらいですか？」

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----



## b410 心機能

### 1. ICF 項目の説明と採点の目安

ICF 項目	b410 心機能 (人体に必要な血液を適切な量と血圧で全身に供給する機能。心拍数や不整脈、心拍出量、心室筋の収縮力、弁の機能を含む)
採点の目安	<p>0 問題なし                      心機能の問題が全くない</p> <p>1 軽度の問題                    心機能の問題が存在するが、日常の活動に支障がない程度である</p> <p>2 中等度の問題：              1 の範囲を超える心機能の問題が存在するが、部分的な問題（50%未満）にとどまる</p> <p>3 重度の問題：                 心機能において、重大な問題（50%以上）が存在する</p> <p>4 完全な問題：                 心機能に完全な問題がある。例えば、心移植が必要な状態や補助循環デバイスを着用しないとイケない状態である。</p> <p>※不整脈と心室筋の収縮力、弁の機能、心筋虚血に分けて採点し、最も点数が低い項目を採用する。</p> <p>※機能そのものを採点対象とし、派生する活動や参加の問題はここでは採点対象としない。</p>

### 2. 採点の目安の妥当性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

### 3. 採点基準の例

#### b4100. 心拍数

ICF 評点	0	1	2	3	4
安静時心拍数 (/分)	60-85	86-100 または 55-59	101-110 または 50-54	120-130 または 40-49	130 以上 または 39 以下

#### b4101. 不整脈

ICF 評点	0	1	2	3	4
ホルター心電図	単発 PVC	PVC < 10/時間	ショートラン 10 < PVC < 30/時間	NSVT > 5 秒 PVC > 30/時間 2 段脈	VT、VT
心電図モニター	徐脈性不整脈 なし	1 度房室 ブロック	2 度房室 ブロック Wenckebach	2 度房室 ブロック Mobitz II 型	完全房室 ブロック ポーズ > 3 秒

資料：1 回目の ICF 評価手法の適切性に関するアンケート調査用紙

			型		
慢性心房細動	-	<110bpm	110-120bpm	121-130bpm	>130bpm

**b4102. 心室筋の収縮力**

ICF 評点	0	1	2	3	4
心エコー	EF>60%	EF50-59%	EF 40-49%	EF 30-39%	EF<30%
	正常	E/A<1	E/A>1 e<2 E/e'<14	E/A>1 e<2 E/e'>14	E/A>2 かつ E/e'>14
	正常	Mild AS or Mild MS	Moderate MS Moderate AS	Moderate MS Moderate AS	Severe MS/MR Severe AS

**b4103.心筋虚血**

ICF 評点	0	1	2	3	4
運動負荷試験：エル ゴメーター	正常	ST 変化>75 ワット	ST 変化 <75>25 ワッ ト	ST 変化<25 ワット	安静時で終了
運動負荷試験：トレ ッドミル	正常	Duke Scale>5	Duke Scale 4~-10	Duke Scale -11~-15	Duke Scale< -15
CCS による狭心症 分類	狭心症なし	CCS 1	CCS 2	CCS 3	CCS 4

**4. 採点基準の適切性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください**

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切				どちらともいえない				非常に適切

**5. ICF 項目の説明・表現の修正や採点基準となる評価手法、評点について意見がありましたら、ご提案をお願いします。**

**【根拠となる文献】**

Giardini A, Vitacca M, Pedretti R, Nardone A, Chiovato L, Spanevello A.: Linking the ICF codes to clinical real-life assessments: the challenge of the transition from theory to practice.

G Ital Med Lav Ergon. 2019 May;41(2):78-104. Italian. PMID: 31170337

## b415 血管の機能

### 1. ICF 項目の説明と採点の目安

ICF 項目	b415 血管の機能 (全身に血液を運搬する機能。機能障害の例としては、動脈の閉塞や狭窄、粥状硬化、動脈硬化、血栓塞栓、静脈瘤など。)
採点の目安	<p>0 問題なし            血管の機能の問題が全くない</p> <p>1 軽度の問題            血管の機能の問題が存在するが、日常の活動に支障がない程度である</p> <p>2 中等度の問題：        1 の範囲を超える血管の機能の問題が存在するが、部分的な問題 (50%未満) にとどまる</p> <p>3 重度の問題：            血管の機能において、重大な問題 (50%以上) が存在する</p> <p>4 完全な問題：            血管の機能に完全な問題がある。例えば、完全な動脈の閉塞により手術が必要な状態など。</p> <p>※心機能や運動耐容能の問題はここでは採点対象としない。</p>

### 2. 採点の目安の妥当性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

### 3. 採点基準の例

ICF 評点	0	1	2	3	4
Fontaine 分類	-	Stage 1	Stage 2	Stage 3	Stage 4

### 4. 採点基準の適切性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

### 5. ICF 項目の説明・表現の修正や採点基準となる評価手法、評点について意見がありましたら、ご提案をお願いします。

【参考資料】

Fontaine 分類

分類	虚血の程度	症状	
Stage 1	軽度	下肢のしびれ感・冷感	足が冷たい。しびれる。青白い。
Stage 2a	中等度	間欠性跛行 (軽度)	歩くとふくらはぎなどに痛みがでるが、休むと治る。 200m以上痛みなしに歩ける。
Stage 2b	中等度	間欠性跛行 (中等度～高度)	200m以下の歩行で痛みが出る。
Stage 3	重度	安静時疼痛	黙っていても痛い
Stage 4	重度	潰瘍・壊死	足に傷やただれ（潰瘍）ができる

【根拠となる文献】

Giardini A, Vitacca M, Pedretti R, Nardone A, Chiovato L, Spanevello A.: Linking the ICF codes to clinical real-life assessments: the challenge of the transition from theory to practice.

G Ital Med Lav Ergon. 2019 May;41(2):78-104. Italian. PMID: 31170337

## b420 血圧の機能

### 1. ICF 項目の説明と採点の目安

ICF 項目	b420 血圧の機能 (動脈内の血液の圧力を維持する機能。機能障害の例としては低血圧や高血圧、起立性低血圧。)	
採点の目安	0 問題なし	血圧の機能の問題が全くない
	1 軽度の問題	血圧の機能の問題が存在するが、日常の活動に支障がない程度である
	2 中等度の問題：	1 の範囲を超える血圧の機能の問題が存在するが、部分的な問題 (50%未満) にとどまる
	3 重度の問題：	血圧の機能において、重大な問題 (50%以上) が存在する
	4 完全な問題：	血圧の機能に完全な問題がある。
	※心機能や血管の機能、運動耐容能の問題はここでは採点対象としない。 ※機能そのものを採点対象とし、派生する活動や参加の問題はここでは採点対象としない。	

### 2. 採点の目安の妥当性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

### 3. 採点基準の例

ICF 評点		0	1	2	3	4
高血圧	収縮期血圧	<130	130-139	140-159	160-170	>180
	拡張期血圧	<85	85-89	90-99	100-109	>110
低血圧	収縮期血圧	>110	110-101	100-91	90-81	≤80

### 4. 採点基準の適切性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

### 5. ICF 項目の説明・表現の修正や採点基準となる評価手法、評点について意見がありましたら、ご提案をお願いします。

資料：1 回目の ICF 評価手法の適切性に関するアンケート調査用紙

【根拠となる文献】

Giardini A, Vitacca M, Pedretti R, Nardone A, Chiovato L, Spanevello A.: Linking the ICF codes to clinical real-life assessments: the challenge of the transition from theory to practice.

G Ital Med Lav Ergon. 2019 May;41(2):78-104. Italian. PMID: 31170337

## b440 呼吸機能

### 1. ICF 項目の説明と採点の目安

ICF 項目	b440 呼吸機能 (肺に空気を吸い込み、空気と血液間でガス交換を行い、空気を吐き出す機能。)
採点の目安	<p>0 問題なし 呼吸機能の問題が全くない</p> <p>1 軽度の問題 呼吸機能の問題が存在するが、日常の活動に支障がない程度である</p> <p>2 中等度の問題： 1 の範囲を超える呼吸機能の問題が存在するが、部分的な問題（50%未満）にとどまる</p> <p>3 重度の問題： 呼吸機能において、重大な問題（50%以上）が存在する</p> <p>4 完全な問題： 呼吸機能に完全な問題がある。</p> <p>※呼吸筋の機能や運動耐容能の問題はここでは採点対象としない。</p> <p>※機能そのものを採点対象とし、派生する活動や参加の問題はここでは採点対象としない。</p>

### 2. 採点の目安の妥当性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

### 3. 採点基準の例

ICF 評点	0	1	2	3	4
PaO <sub>2</sub> (動脈血ガス)	>70	70-60	59-55	<55	<50
PaO <sub>2</sub> /FiO <sub>2</sub>	>300	300-280	279-250	249-200	<200
PaCO <sub>2</sub> (動脈血ガス)	40-45	46-48	49-55	66-60	>60
PtCO <sub>2</sub> (夜間)	<45 かつ 日中 HCO <sub>3</sub> <27mmol	>45 かつ 日中 HCO <sub>3</sub> >27mmol	増加 >10mmHg かつ PtCO <sub>2</sub> >50m mHg/10 分	夜間 PtCO <sub>2</sub> >55 mmHg/10 分	夜間 PtCO <sub>2</sub> >55m mHg/10 分 かつ 夜間 PaCO <sub>2</sub> >45m mHg
臨床所見	自発呼吸	酸素投与 0.5-1.0L または FiO <sub>2</sub> : 24%	酸素投与 1.5-2.0L または FiO <sub>2</sub> : 26-	酸素投与 >2.0L また は FiO <sub>2</sub> : >31%	酸素投与 > 5.0L または FiO <sub>2</sub> > 50% または

資料：1 回目の ICF 評価手法の適切性に関するアンケート調査用紙

			31%	または夜間 NPPV 着用	人工呼吸器 または リハビリのた めの NPPV
SAO2	>95	92-95	88-91	85-88	<85

**4. 採点基準の適切性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください**

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切				どちらともいえない				非常に適切

**5. ICF 項目の説明・表現の修正や採点基準となる評価手法、評点について意見がありましたら、ご提案をお願いします。**

**【根拠となる文献】**

Giardini A, Vitacca M, Pedretti R, Nardone A, Chiovato L, Spanevello A.: Linking the ICF codes to clinical real-life assessments: the challenge of the transition from theory to practice. G Ital Med Lav Ergon. 2019 May;41(2):78-104. Italian. PMID: 31170337



## **b455 運動耐容能**

### **1. ICF 項目の説明と採点の目安**

ICF 項目	b455 運動耐容能 (日常の身体活動に耐える体力。)	
採点の目安	0 問題なし	運動耐容能において問題がない
	1 軽度の問題	運動耐容能の問題が存在するが、日常の活動に支障がない程度である
	2 中等度の問題：	1 の範囲を超える運動耐容能の問題が存在するが、部分的な問題 (50%未満) にとどまる
	3 重度の問題：	運動耐容能において、重大な問題 (50%以上) が存在する
	4 完全な問題：	運動耐容能に完全な問題がある。

### **2. 採点の目安の妥当性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください**

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

### **3. 採点基準の例**

ICF 評点	0	1	2	3	4
6 分間歩行テスト <sup>1)</sup>	>400	301-400	201-300	101-200	1-100
身体活動能力評価 <sup>2)</sup> (Specific Activity Scale: SAS)	7 METs 以上	6~6.9 METs	3.5~ 5.9METs	2~3.4METs	1~1.9METs

### **4. 採点基準の適切性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください**

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

### **5. ICF 項目の説明・表現の修正や採点基準となる評価手法，評点について意見がありましたら，ご提案をお願いします。**

#### **【根拠となる文献】**

1)Giardini A, Vitacca M, Pedretti R, Nardone A, Chiovato L, Spanevello A.: Linking the ICF codes to clinical real-life assessments: the challenge of the transition from theory to practice.

資料：1 回目の ICF 評価手法の適切性に関するアンケート調査用紙

G Ital Med Lav Ergon. 2019 May;41(2):78-104. Italian. PMID: 31170337

2) 難病情報センター：特発性拡張型心筋症. 指定難病 57). <http://www.nanbyou.or.jp/entry/3986>

**b460 心血管系と呼吸器系に関連した機能**

**1. ICF 項目の説明と採点の目安**

ICF 項目	b460 心血管系と呼吸器系に関連した機能 (息切れや動悸などの自覚症状)	
採点の目安	0 問題なし	息切れや動悸などの問題が全くない
	1 軽度の問題	息切れや動悸などの問題が存在するが、日常の活動に支障がない程度である
	2 中等度の問題：	1 の範囲を超える息切れや動悸などの問題が存在するが、部分的な問題 (50%未満) にとどまる
	3 重度の問題：	息切れや動悸などの自覚症状において、重大な問題 (50%以上) が存在する
	4 完全な問題：	息切れや動悸などの自覚症状に完全な問題がある。

**2. 採点の目安の妥当性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください**

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

**3. 採点基準の例**

ICF 評点	0	1	2	3	4
NYHA <sup>1)</sup>	I	II S	II M	III	IV

**4. 採点基準の適切性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください**

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

**5. ICF 項目の説明・表現の修正や採点基準となる評価手法、評点について意見がありましたら、ご提案をお願いします。**

【参考資料】

NYHA 分類(New York Heart Association functional classication)<sup>2)</sup>

NYHA 心機能分類	説明
I	心疾患はあるが身体活動に制限はない。日常的な身体活動では著しい疲労、動悸、呼吸困難あるいは狭心痛を生じない。
II S	軽度の身体活動の制限がある。安静時には無症状。日常的な身体活動で疲労、動悸、呼吸困難あるいは狭心痛を生じる。
II M	中等度の身体活動の制限がある。安静時には無症状。日常的な身体活動で疲労、動悸、呼吸困難あるいは狭心痛を生じる。
III	高度の身体活動の制限がある。安静時には無症状。日常的な身体活動以下で疲労、動悸、呼吸困難あるいは狭心痛を生じる。
IV	心疾患のためいかなる身体活動も制限される。心不全症状や狭心痛が安静時にも存在する。わずかな労作でこれらの症状は増悪する。

【根拠となる文献】

1)Giardini A, Vitacca M, Pedretti R, Nardone A, Chiovato L, Spanevello A.: Linking the ICF codes to clinical real-life assessments: the challenge of the transition from theory to practice.

G Ital Med Lav Ergon. 2019 May;41(2):78-104. Italian. PMID: 31170337

2)The criteria committee of the New York Heart Association. IN: Nomenclature and Criteria for Diagnosis of Diseases of the Heart and Great Vessels, 9<sup>th</sup> Ed, Little Brown & Co, 1994: p253-256.

## b525 排便機能

### 1. ICF 項目の説明と採点の目安

ICF 項目	b525 排便機能 (日常に支障なく排便する機能)	
採点の目安	0 問題なし	排便機能において問題がない
	1 軽度の問題	排便機能において問題が存在するが、日常の活動に支障がない程度である
	2 中等度の問題：	1 の範囲を超える排便機能の問題が存在するが、部分的な問題（50%未満）にとどまる
	3 重度の問題：	排便機能において、重大な問題（50%以上）が存在する
	4 完全な問題：	排便機能においてに完全な問題がある。例えば、常に便秘や便失禁の問題が生じている。

### 2. 採点の目安の妥当性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

### 3. 採点基準の例

ICF 評点	0	1	2	3	4
排便機能	問題なし	時々便秘または下痢 (週に 1 回未満)	しばしば便秘または下痢 (> 週に 1 回)	持続性の便秘または下痢 (毎日) 下剤が必要	人工肛門 (回復の見込みなし)

### 4. 採点基準の適切性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

### 5. ICF 項目の説明・表現の修正や採点基準となる評価手法、評点について意見がありましたら、ご提案をお願いします。

資料：1 回目の ICF 評価手法の適切性に関するアンケート調査用紙

【根拠となる文献】

Giardini A, Vitacca M, Pedretti R, Nardone A, Chiovato L, Spanevello A.: Linking the ICF codes to clinical real-life assessments: the challenge of the transition from theory to practice.

G Ital Med Lav Ergon. 2019 May;41(2):78-104. Italian. PMID: 31170337

### b530 体重維持機能

#### 1. ICF 項目の説明と採点の目安

ICF 項目	b530 体重維持機能 (適正な体重を維持する機能)	
採点の目安	0 問題なし	体重維持機能に問題がない
	1 軽度の問題	体重維持機能に問題が存在するが、日常の活動に支障がない程度である
	2 中等度の問題：	1 の範囲を超える体重維持機能の問題が存在するが、部分的な問題 (50%未満) にとどまる
	3 重度の問題：	体重維持機能において、重大な問題 (50%以上) が存在する
	4 完全な問題：	体重維持機能においてに完全な問題がある。例えば、過度な肥満やうい瘦などの問題が生じている。

#### 2. 採点の目安の妥当性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

#### 3. 採点基準の例

ICF 評点	0	1	2	3	4
BMI	18.5 ≤ BMI < 25	25 ≤ BMI < 30	30 ≤ BMI < 35	35 ≤ BMI < 40	40 ≤
	-	-	17 ≤ BMI < 18.4	16 ≤ BMI < 16.9	< 16

#### 4. 採点基準の適切性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

#### 5. ICF 項目の説明・表現の修正や採点基準となる評価手法，評点について意見がありましたら，ご提案をお願いします。

#### 【根拠となる文献】

Giardini A, Vitacca M, Pedretti R, Nardone A, Chiovato L, Spanevello A.: Linking the ICF codes to clinical real-life assessments: the challenge of the transition from theory to practice.

資料：1 回目の ICF 評価手法の適切性に関するアンケート調査用紙

G Ital Med Lav Ergon. 2019 May;41(2):78-104. Italian. PMID: 31170337



**b545 水分・ミネラル・電解質バランスの機能**

**1. ICF 項目の説明と採点の目安**

ICF 項目	b545 水分・ミネラル・電解質バランスの機能 (体内の水分・ミネラル・電解質を制御する機能)	
採点の目安	0 問題なし	水分・ミネラル・電解質バランスの機能に問題がない
	1 軽度の問題	水分・ミネラル・電解質バランスの機能に問題が存在するが、日常の活動に支障がない程度である
	2 中等度の問題：	1 の範囲を超える水分・ミネラル・電解質バランスの機能の問題が存在するが、部分的な問題（50%未満）にとどまる
	3 重度の問題：	水分・ミネラル・電解質バランスの機能において、重大な問題（50%以上）が存在する
	4 完全な問題：	水分・ミネラル・電解質バランスの機能においてに完全な問題がある。

**2. 採点の目安の妥当性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください**

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

**3. 採点基準の例**

ICF 評点	0	1	2	3	4
Na <sup>+</sup> (mEq/l) <sup>1)</sup>	-	-		≥ 150	≥ 160
	> 138	138-136	135-132	131-125	< 125
K <sup>+</sup> (mEq/l) <sup>1)</sup>	4.5-5.0	5.1-5.5	5.6-6.0	6.1-6.5	>6.6
	4.5-5.0	4.5-4.0	3.9-3.5	3.4-3.0	<3.0
BNP(pg/ml) <sup>2)</sup>	<18.4	18.5-40	41-100	101-200	<201
NT-pro BNP <sup>2)</sup> (pg/ml)	<55	56-125	126-400	401-900	<901

**4. 採点基準の適切性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください**

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

**5. ICF 項目の説明・表現の修正や採点基準となる評価手法、評点について意見がありましたら、ご提案をお願いします。**

【根拠となる文献】

- 1) Giardini A, Vitacca M, Pedretti R, Nardone A, Chiovato L, Spanevello A.: Linking the ICF codes to clinical real-life assessments: the challenge of the transition from theory to practice. *G Ital Med Lav Ergon.* 2019 May;41(2):78-104. Italian. PMID: 31170337
- 2) 日本循環器学会：急性・慢性心不全診療ガイドライン，2018.

## b620 排尿機能

### 1. ICF 項目の説明と採点の目安

ICF 項目	b620 排尿機能 (日常に支障なく排尿する機能)
採点の目安	<p>0 問題なし 排尿機能において問題がない</p> <p>1 軽度の問題 排尿機能において問題が存在するが、日常の活動に支障がない程度である</p> <p>2 中等度の問題： 1 の範囲を超える排尿機能の問題が存在するが、部分的な問題（50%未満）にとどまる</p> <p>3 重度の問題： 排尿機能において、重大な問題（50%以上）が存在する</p> <p>4 完全な問題： 排尿機能においてに完全な問題がある。例えば、常に尿閉や尿失禁の問題が生じている。</p> <p>※排尿困難や失禁といった、排尿における問題の程度の頻度を考慮に入れて採点する。 ※機能そのものを採点対象とし、派生する克党と参加の問題はここでは採点対象としない。</p>

### 2. 採点の目安の妥当性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

### 3. 採点基準の例

ICF 評点	0	1	2	3	4
排便機能	問題なし	排尿困難あり 機能が維持された神経因性膀胱（失禁は週1回未満） 介助者を必要としない	時折失禁（週1回未満） 回復の見込み有り 介助者が必要	失禁または薬物が必要（毎日） 神経因性膀胱の場合、しばしば失禁（週2回以上）、介助者が必要	回復の見込みのない神経因性膀胱 常に介助者が必要

### 4. 採点基準の適切性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

### 5. ICF 項目の説明・表現の修正や採点基準となる評価手法、評点について意見がありましたら、ご提案をお願いします。

--

資料：1 回目の ICF 評価手法の適切性に関するアンケート調査用紙

【根拠となる文献】

Giardini A, Vitacca M, Pedretti R, Nardone A, Chiovato L, Spanevello A.: Linking the ICF codes to clinical real-life assessments: the challenge of the transition from theory to practice.

G Ital Med Lav Ergon. 2019 May;41(2):78-104. Italian. PMID: 31170337

**b710 関節の可動域の機能**

**1. ICF 項目の説明と採点の目安**

ICF 項目	b710 関節の可動域の機能 (関節の可動域と動きやすさ)
採点の目安	<p>0 問題なし                    関節の可動域の機能において問題がない</p> <p>1 軽度の問題                関節の可動域の機能において問題が存在するが、日常の活動に支障がない程度である</p> <p>2 中等度の問題：        1 の範囲を超える関節の可動域の機能の問題が存在するが、部分的な問題（50%未満）にとどまる</p> <p>3 重度の問題：            関節の可動域の機能において、重大な問題（50%以上）が存在する</p> <p>4 完全な問題：            関節の可動域の機能においてに完全な問題がある。</p> <p>※関節拘縮や疼痛による可動域制限といった、関節の可動性の機能における問題の程度と問題の割合を考慮に入れて採点する。</p> <p>※機能そのものを採点対象とし、派生する活動と参加の問題はここでは採点対象としない。</p> <p>※肩関節や肘、手、股関節や膝、足などの大関節を採点対象とし、2 関節以上に問題がある場合は、最も点数の低いものを採用する。</p>

**2. 採点の目安の妥当性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください**

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

**3. 採点基準の例**

ICF 評点	0	1	2	3	4
ROM	正常	大関節の可動域が 2/3 以上	大関節の可動域が 2/3 程度	大関節の可動域が 1/3 程度	大関節の可動域が 1/3 未満

**4. 採点基準の適切性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください**

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

**5. ICF 項目の説明・表現の修正や採点基準となる評価手法，評点について意見がありましたら，ご提案をお願いします。**

資料：1 回目の ICF 評価手法の適切性に関するアンケート調査用紙

【根拠となる文献】

Giardini A, Vitacca M, Pedretti R, Nardone A, Chiovato L, Spanevello A.: Linking the ICF codes to clinical real-life assessments: the challenge of the transition from theory to practice.

G Ital Med Lav Ergon. 2019 May;41(2):78-104. Italian. PMID: 31170337

## b730 筋力の機能

### 1. ICF 項目の説明と採点の目安

ICF 項目	b730 筋力の機能 (日常生活に必要な筋力)
採点の目安	<p>0 問題なし                   筋力の機能において問題がない</p> <p>1 軽度の問題               筋力の機能において問題が存在するが、日常の活動に支障がない程度である</p> <p>2 中等度の問題：       1 の範囲を超える筋力の機能の問題が存在するが、部分的な問題（50%未満）にとどまる</p> <p>3 重度の問題：           筋力の機能において、重大な問題（50%以上）が存在する</p> <p>4 完全な問題：           筋力の機能においてに完全な問題がある。</p> <p>※筋力の機能における問題の程度と問題の割合を考慮に入れて採点する。</p> <p>※機能そのものを採点対象とし、派生する活動と参加の問題はここでは採点対象としない。</p> <p>※肩関節や肘、手、股関節や膝、足などの大関節を採点対象とし、左右差がある場合を含めて、最も点数の低いものを採用する。</p>

### 2. 採点の目安の妥当性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

### 3. 採点基準の例

#### 循環器・呼吸器疾患の場合

ICF 評点	0	1	2	3	4
SPPB 椅子立ち座りテスト	<11.2 秒	11.2-13.6 秒	13.7-16.6 秒	> 16.6 秒	実施困難

#### 循環器・呼吸器疾患以外の場合

ICF 評点	0	1	2	3	4
MMT	5	4	3	2	1-0

### 4. 採点基準の適切性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

5. ICF 項目の説明・表現の修正や採点基準となる評価手法、評点について意見がありましたら、ご提案をお願いします。

資料：1 回目の ICF 評価手法の適切性に関するアンケート調査用紙

【根拠となる文献】

Giardini A, Vitacca M, Pedretti R, Nardone A, Chiovato L, Spanevello A.: Linking the ICF codes to clinical real-life assessments: the challenge of the transition from theory to practice. G Ital Med Lav Ergon. 2019 May;41(2):78-104. Italian. PMID: 31170337



## d230 日課の遂行

### 1. ICF 項目の説明と採点の目安

ICF 項目	d230 日課の推敲 (日常生活上の活動を計画し、行うこと。)	
採点の目安	0 問題なし	問題なく自分でやっている。
	1 軽度の問題	自分でやっているが、計画性に乏しい、活動の計画に消極的である。
	2 中等度の問題：	一部（50%未満）をサポート下で行っている。
	3 重度の問題：	大部分（50%以上）をサポート下で行っている。
	4 完全な問題：	完全なサポート下で行っている、もしくは全く行えていない。

### 2. 採点の目安の妥当性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

### 3. ICF 項目の説明・表現の修正や採点基準となる評価手法、評点について意見がありましたら、ご提案をお願いします。

#### 【根拠となる文献】

ICF リファレンスガイド

Giardini A, Vitacca M, Pedretti R, Nardone A, Chiovato L, Spanevello A.: Linking the ICF codes to clinical real-life assessments: the challenge of the transition from theory to practice.

G Ital Med Lav Ergon. 2019 May;41(2):78-104. Italian. PMID: 31170337

## **d240 ストレスとその他の心理的要求への対処**

### **1. ICF 項目の説明と採点の目安**

ICF 項目	d240 ストレスとそのほかの心理的要求への対処 (責任を伴う課題によるストレスや動揺に対処する。)
採点の目安	<p>0 問題なし                    問題なく自分で行っている。</p> <p>1 軽度の問題                自分で行っているが、課題の解決そのものに他者によるアドバイスや励ましを要する。</p> <p>2 中等度の問題：          一部（50%未満）を他者の指示下やサポート下で行っている。</p> <p>3 重度の問題：              大部分（50%以上）を他者の指示下やサポート下で行っている。</p> <p>4 完全な問題：              完全なサポート下で行っている、もしくは全く行えていない。</p>

### **2. 採点の目安の妥当性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください**

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

### **3. ICF 項目の説明・表現の修正や採点基準となる評価手法，評点について意見がありましたら，ご提案をお願いします。**

【根拠となる文献】

ICF リファレンスガイド

### d310 話し言葉の理解

#### 1. ICF 項目の説明と採点の目安

ICF 項目	d310 話し言葉の理解 (他者の話し言葉の意味を理解すること。)	
採点の目安	0 問題なし	問題なく自分で理解している。
	1 軽度の問題	自分で理解しているが、他者によるアドバイスや配慮を少し要する。
	2 中等度の問題：	一部（50%未満）を他者のサポートや配慮により理解している。
	3 重度の問題：	大部分（50%以上）を他者のサポートや配慮により理解している。
	4 完全な問題：	完全なサポート下で理解している、もしくは全く理解していない。

#### 2. 採点の目安の妥当性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

#### 3. 採点基準の例

##### 循環器・呼吸器疾患の場合

ICF 評点	0	1	2	3	4
WHODAS 2.0 D1.5：会話の理解	全く問題なし	軽度の 問題あり	中等度の 問題あり	ひどく 問題あり	全く何も できない

#### 4. 採点基準の適切性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

#### 5. ICF 項目の説明・表現の修正や採点基準となる評価手法、評点について意見がありましたら、ご提案をお願いします。

#### 【根拠となる文献】

T Bedirhan Üstün a, Somnath Chatterji a, Nenad Kostanjsek a, Jürgen Rehm b, Cille Kennedy c, Joanne Epping-Jordan d, Shekhar Saxena a, Michael von Korff e, Charles Pull f & in collaboration with WHO/NIH Joint Project: Developing the World Health Organization Disability Assessment Schedule 2.0. Bulletin of the World Health Organization 2010;88:815-823.

### d330 話すこと

#### 1. ICF 項目の説明と採点の目安

ICF 項目	d330 話すこと (他者が理解できるように話すこと。)	
採点の目安	0 問題なし	問題なく相手に伝えることができる。
	1 軽度の問題	相手に伝えることができるが、時間や配慮を少し要する。
	2 中等度の問題：	簡単な内容であれば相手に伝えることができる。一部（50%未満）を他者のサポートや配慮により伝えている。
	3 重度の問題：	ごく簡単な内容であれば相手に伝えることができる。大部分（50%以上）を他者のサポートや配慮により伝えている。
	4 完全な問題：	完全なサポート下で伝えている、もしくは全く伝えることができない。

#### 2. 採点の目安の妥当性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

#### 3. 採点基準の例

ICF 評点	0	1	2	3	4
FIM コミュニケーション 「表出」	7	6	5	4-3	2-1

#### 4. 採点基準の適切性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

5. ICF 項目の説明・表現の修正や採点基準となる評価手法，評点について意見がありましたら，ご提案をお願いします。

【参考資料】

FIM：コミュニケーション「表出」

表出	スコア
複雑な内容（冗談・生活設計など）も問題なく相手に伝えることができる	7
複雑な内容（冗談・生活設計など）を相手に伝えることができるが、時間がかかる、筆談、道具が必要	6
簡単な内容（基本的な要求・挨拶・セルフケアに関する話題）であれば、題なく相手に伝えることができる	5
簡単な内容（基本的な要求・挨拶・セルフケアに関する話題）を短い分（お茶を取ってください等）であれば相手に伝えることができる	4
簡単な内容（基本的な要求・挨拶・セルフケアに関する話題）を強調文や短い句（お茶！とって！等）であれば相手に伝えることができる	3
簡単な内容（基本的な要求・挨拶・セルフケアに関する話題）を単語やジェスチャー（お茶！等）であれば相手に伝えることができる	2
全く何も伝えることができない	1

【根拠となる文献】

Proding B, O'Connor RJ, Stucki G, Tennant A. :Establishing score equivalence of the Functional Independence Measure motor scale and the Barthel Index, utilising the International Classification of Functioning, Disability and Health and Rasch measurement theory. J Rehabil Med. 2017 May 16;49(5):416-422. doi: 10.2340/16501977-2225.

## **d350 会話**

### **1. ICF 項目の説明と採点の目安**

ICF 項目	d350 会話 (話し言葉、書き言葉、記号、その他の方法の言語を用いて行われる、考えやアイデアの交換を開始し、持続し、終結すること。)
採点の目安	0 問題なし                      問題なく会話をしている。 1 軽度の問題                    会話をする事ができるが、サポートや配慮を少し要する。 2 中等度の問題：                一部（50%未満）をサポートや配慮により会話をしている。 3 重度の問題：                   大部分（50%以上）を他者のサポートや配慮により会話をしている。 4 完全な問題：                   完全なサポート下で会話をしている、もしくは全く会話することができない。

### **2. 採点の目安の妥当性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください**

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

### **3. ICF 項目の説明・表現の修正や採点基準となる評価手法，評点について意見がありましたら，ご提案をお願いします。**

### **d420 乗り移り（移乗）**

#### **1. ICF 項目の説明と採点の目安**

ICF 項目	d420 乗り移り（移乗） （ベッドから車椅子へ、などの移乗。）	
採点の目安	0 問題なし	問題なく自分でやっている。
	1 軽度の問題	自分でやっているが困難を伴う、装具や杖、手すりを使用する。あるいは他者の見守り下で行っている。
	2 中等度の問題：	一部（50%未満）をサポート下で行っている。
	3 重度の問題：	大部分（50%以上）をサポート下で行っている。
	4 完全な問題：	完全なサポート下で伝えている、もしくは全く行えていない。

#### **2. 採点の目安の妥当性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください**

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

#### **3. 採点基準の例**

ICF 評点	0	1	2	3	4
FIM 移乗	7	6	5	4-3	2-1

#### **4. 採点基準の適切性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください**

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

**5. ICF 項目の説明・表現の修正や採点基準となる評価手法，評点について意見がありましたら，ご提案をお願いします。**

【参考資料】

FIM：移乗

採点基準	スコア
介助なし（手すりや装具も不要）	7
介助なし（手すりや支持物を使用）	6
見守りや車いすの位置を整える準備が必要	5
まさかのために触れている程度の介助が必要	4
軽く引き上げる程度の介助が必要	3
しっかりと引き上げて回す程度の介助が必要	2
全介助・二人介助	1

【根拠となる文献】

Prodinger B, O'Connor RJ, Stucki G, Tennant A. :Establishing score equivalence of the Functional Independence Measure motor scale and the Barthel Index, utilising the International Classification of Functioning, Disability and Health and Rasch measurement theory. J Rehabil Med. 2017 May 16;49(5):416-422. doi: 10.2340/16501977-2225.



## d450 歩行

### 1. ICF 項目の説明と採点の目安

ICF 項目	d450 歩行 (平地での歩行。)	
採点の目安	0 問題なし	問題なく自分で歩いている。
	1 軽度の問題	自分で歩いているが困難を伴う、装具や杖、手すりを使用する。あるいは他者の見守り下で歩いている。
	2 中等度の問題：	一部（50%未満）をサポート下で歩いている。
	3 重度の問題：	大部分（50%以上）をサポート下で歩いている。
	4 完全な問題：	完全なサポート下で歩いている、もしくは全く歩いていない。

### 2. 採点の目安の妥当性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

### 3. 採点基準の例

ICF 評点	0	1	2	3	4
4m 歩行速度テスト SPPB <sup>1)</sup>	< 4.8 秒	4.8～6.2 秒	6.3～8.7 秒	> 8.7 秒	実施困難
FIM 歩行 <sup>2)</sup>	7	6	5	4-3	2-1

### 4. 採点基準の適切性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

### 5. ICF 項目の説明・表現の修正や採点基準となる評価手法、評点について意見がありましたら、ご提案をお願いします。

資料：1 回目の ICF 評価手法の適切性に関するアンケート調査用紙


【参考資料】

SPPB：歩行速度テスト<sup>1)</sup>

**2. 歩行速度テスト**

- ・対象者が歩き出したら測定開始
- ・片方の足部が完全にラインを越えたら測定終了

通常速度歩行4mの時間を測定する  
2回測定し、良い方を測定値とする



<4.82 秒	4点
4.82-6.20 秒	3点
6.21-8.70 秒	2点
>8.7 秒	1点
実施困難	0点

1回目	秒
2回目	秒

FIM：歩行<sup>2)</sup>

採点基準	スコア
50m 以上独歩で移動できる	7
50m 以上移動できる（歩行器やシルバーカー）	6
50m 以上移動できるが、見守りや準備が必要 50m は移動できないが、15m の移動は自立している	5
50m 以上移動する際に介助が必要だが、75%以上は自分で実行する	4
50m 以上移動する際に介助が必要だが、74～50%は自分で実行する	3
15m 以上移動する際に介助が必世だが、49～25%は自分で実行する	2
それ以下の歩行能力	1

【根拠となる文献】

1) Giardini A, Vitacca M, Pedretti R, Nardone A, Chiovato L, Spanevello A.: Linking the ICF codes to clinical real-life assessments: the challenge of the transition from theory to practice.

G Ital Med Lav Ergon. 2019 May;41(2):78-104. Italian. PMID: 31170337

2) Prodinge B, O'Connor RJ, Stucki G, Tennant A. :Establishing score equivalence of the Functional Independence Measure motor scale and the Barthel Index, utilising the International Classification of Functioning, Disability and Health and Rasch measurement theory. J Rehabil Med. 2017 May 16;49(5):416-422. doi: 10.2340/16501977-2225.

ICF リファレンスガイド

### d470 交通機関や手段の利用

#### 1. ICF 項目の説明と採点の目安

ICF 項目	d470 交通機関や手段の利用 (乗客として様々な交通機関を使って移動する。)	
採点の目安	0 問題なし	問題なく自分でやっている。
	1 軽度の問題	自分でやっているが困難を伴う、装具や杖、手すりを使用する。あるいは他者の見守り下で行っている。
	2 中等度の問題：	一部（50%未満）をサポート下で行っている。
	3 重度の問題：	大部分（50%以上）をサポート下で行っている。
	4 完全な問題：	完全なサポート下で伝えている、もしくは全く行えていない。

#### 2. 採点の目安の妥当性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

#### 3. 採点基準の例

ICF 評点	0	1	2	3	4
Lawton IADL 外出	公共交通機関の利用や自動車での移動が自立している	タクシーを使った移動は自立しているが、それ以外の方法では外出しない	付き添いや介助者がいれば公共交通機関の利用ができる	他者の介助でタクシーまたは自動車での外出ができる	全く外出しない

#### 4. 採点基準の適切性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

#### 5. ICF 項目の説明・表現の修正や採点基準となる評価手法、評点について意見がありましたら、ご提案をお願いします。

資料：1 回目の ICF 評価手法の適切性に関するアンケート調査用紙

【根拠となる文献】

Lawton, M.P., & Brody, E.M. (1969). Assessment of older people: Self-maintaining and instrumental activities of daily living. *The Gerontologist*, 9(3), 179-186.

ICF リファレンスガイド

## d510 自分の体を洗うこと

### 1. ICF 項目の説明と採点の目安

ICF 項目	d510 自分の体を洗うこと (身体の部分および全体を洗い、拭き、乾かす。)	
採点の目安	0 問題なし	問題なく自分でやっている。
	1 軽度の問題	自分でやっているが困難を伴う、装具や自助具、手すりを使用する。あるいは他者の見守り下で行っている。
	2 中等度の問題：	一部（50%未満）をサポート下で行っている。
	3 重度の問題：	大部分（50%以上）をサポート下で行っている。
	4 完全な問題：	完全なサポート下で伝えている、もしくは全く行えていない。

### 2. 採点の目安の妥当性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

### 3. 採点基準の例

ICF 評点	0	1	2	3	4
FIM 清拭	7	6	5	4-3	2-1

### 4. 採点基準の適切性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

### 5. ICF 項目の説明・表現の修正や採点基準となる評価手法、評点について意見がありましたら、ご提案をお願いします。

資料：1 回目の ICF 評価手法の適切性に関するアンケート調査用紙

【参考資料】

FIM：清拭

採点基準	スコア
全ての体部位を洗い、乾かせる	7
自助具を使う、時間がかかる（洗体ブラシ、シャワーチェアなど）	6
見守り、指示、準備が必要	5
体の部位のうち、75%以上を自分で洗う	4
体の部位のうち、50～74%を自分で洗う	3
体の部位のうち、25～49%を自分で洗う	2
体の部位のうち、25%未満しか自分で洗わない	1

※10箇所法：以下の各部位を10%とする

- ①左上肢、②右上肢、③胸部、④腹部、⑤会陰部前面、⑥臀部を含む会陰部、
- ⑦左大腿、⑧右大腿、⑨左下腿、⑩右下腿
- （頭部・背部は含まない）

【根拠となる文献】

Prodinger B, O'Connor RJ, Stucki G, Tennant A. :Establishing score equivalence of the Functional Independence Measure motor scale and the Barthel Index, utilising the International Classification of Functioning, Disability and Health and Rasch measurement theory. J Rehabil Med. 2017 May 16;49(5):416-422. doi: 10.2340/16501977-2225.

ICF リファレンスガイド

## d520 身体各部の手入れ

### 1. ICF 項目の説明と採点の目安

ICF 項目	d520 身体各部の手入れ (歯、髪、髪、爪、肌などの手入れをする。)	
採点の目安	0 問題なし	問題なく自分でやっている。
	1 軽度の問題	自分でやっているが困難を伴う、自助具を使用する。あるいは他者の見守り下で行っている。
	2 中等度の問題：	一部（50%未満）をサポート下で行っている。
	3 重度の問題：	大部分（50%以上）をサポート下で行っている。
	4 完全な問題：	完全なサポート下で伝えている、もしくは全く行えていない。

### 2. 採点の目安の妥当性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

### 3. 採点基準の例

ICF 評点	0	1	2	3	4
FIM 整容	7	6	5	4-3	2-1

### 4. 採点基準の適切性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

### 5. ICF 項目の説明・表現の修正や採点基準となる評価手法、評点について意見がありましたら、ご提案をお願いします。

【参考資料】

FIM：清拭 ①歯磨き（入れ歯含む）、②手洗い、③整髪、④洗顔、⑤髭剃り（or 化粧）

採点基準	スコア
すべて自力で行う	7
すべて自力で行うが、時間がかかったり、自助具が必要	6
見守り、指示、準備があれば自力で可能	5
5項目のうち、1項目で介助が必要	4
5項目のうち、2項目で介助が必要	3
5項目のうち、3項目で介助が必要	2
5項目のうち、4項目以上で介助が必要	1

【根拠となる文献】

Prodinger B, O'Connor RJ, Stucki G, Tennant A. :Establishing score equivalence of the Functional Independence Measure motor scale and the Barthel Index, utilising the International Classification of Functioning, Disability and Health and Rasch measurement theory. J Rehabil Med. 2017 May 16;49(5):416-422. doi: 10.2340/16501977-2225.

ICF リファレンスガイド



### d530 排泄

#### 1. ICF 項目の説明と採点の目安

ICF 項目	d530 排泄 (日常に支障なく排泄 (排尿、排便、生理) し、後始末する。)	
採点の目安	0 問題なし	問題なく自分でやっている。
	1 軽度の問題	自分でやっているが困難を伴う、装具や自助具、手すりを使用する。あるいは他者の見守り下で行っている。
	2 中等度の問題：	一部 (50%未満) をサポート下で行っている。
	3 重度の問題：	大部分 (50%以上) をサポート下で行っている。
	4 完全な問題：	完全なサポート下で伝えている、もしくは全く行えていない。

#### 2. 採点の目安の妥当性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

#### 3. 採点基準の例

ICF 評点	0	1	2	3	4
FIM トイレ動作	7	6	5	4-3	2-1

#### 4. 採点基準の適切性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

5. ICF 項目の説明・表現の修正や採点基準となる評価手法、評点について意見がありましたら、ご提案をお願いします。

【参考資料】

FIM：トイレ動作

採点基準	スコア
手すりを持たなくても自立	7
手すりがあれば自立、尿器を使用する	6
見守り、指示、準備があれば自力で可能	5
①服を下げる、②尻を拭く、③服を上げるが可能だが、軽く支えが必要	4
①服を下げる、②尻を拭く、③服を上げるのうち、1項目で介助が必要	3
①服を下げる、②尻を拭く、③服を上げるのうち、2項目で介助が必要	2
①服を下げる、②尻を拭く、③服を上げるのうち、すべて介助が必要	1

【根拠となる文献】

Prodinger B, O'Connor RJ, Stucki G, Tennant A. :Establishing score equivalence of the Functional Independence Measure motor scale and the Barthel Index, utilising the International Classification of Functioning, Disability and Health and Rasch measurement theory. J Rehabil Med. 2017 May 16;49(5):416-422. doi: 10.2340/16501977-2225.

ICF リファレンスガイド

## d540 更衣

### 1. ICF 項目の説明と採点の目安

ICF 項目	d540 更衣 (気候や状況に応じて適切な衣服と靴を着脱する。)	
採点の目安	0 問題なし	問題なく自分でやっている。
	1 軽度の問題	自分でやっているが困難を伴う、装具や自助具を使用する。あるいは他者の見守り下で行っている。あるいは着用可能な衣服に制限がある。
	2 中等度の問題：	一部（50%未満）をサポート下で行っている。
	3 重度の問題：	大部分（50%以上）をサポート下で行っている。
	4 完全な問題：	完全なサポート下で伝えている、もしくは全く行えていない。

### 2. 採点の目安の妥当性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

### 3. 採点基準の例

ICF 評点	0	1	2	3	4
FIM 更衣	7	6	5	4-3	2-1

### 4. 採点基準の適切性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

### 5. ICF 項目の説明・表現の修正や採点基準となる評価手法、評点について意見がありましたら、ご提案をお願いします。

【参考資料】

FIM：更衣

採点基準	スコア
自立	7
自助具を使用し自立（マジックテープの服、リーチャー、ソックスエイド等）	6
見守り、指示、準備があれば自力で可能	5
一部介助（ボタンや袖通し、立位保持、片側の裾、引き上げのみ）	4
半分以上可能（両側の裾通しのみ介助など）	3
少し協力あり（かぶる動作のみなど）	2
ほぼ全介助	1

【根拠となる文献】

Prodinger B, O'Connor RJ, Stucki G, Tennant A. :Establishing score equivalence of the Functional Independence Measure motor scale and the Barthel Index, utilising the International Classification of Functioning, Disability and Health and Rasch measurement theory. J Rehabil Med. 2017 May 16;49(5):416-422. doi: 10.2340/16501977-2225.

ICF リファレンスガイド

**d550 食べること/d560 飲むこと**

**1. ICF 項目の説明と採点の目安**

ICF 項目	d550 食べること (必要な手段を使って安全に食べる。) d560 飲むこと (必要な手段を使って安全に飲む。)	
採点の目安	0 問題なし	問題なく自分でやっている。
	1 軽度の問題	自分でやっているが困難を伴う、自助具を使用する。あるいは他者の見守り下で行っている。摂食可能な食形態や使用可能な食器に制限がある。
	2 中等度の問題：	一部（50%未満）をサポート下で行っている。
	3 重度の問題：	大部分（50%以上）をサポート下で行っている。
	4 完全な問題：	完全なサポート下で伝えている、もしくは全く行えていない。

**2. 採点の目安の妥当性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください**

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

**3. 採点基準の例**

ICF 評点	0	1	2	3	4
FIM	7	6	5	4-3	2-1
食事					

**4. 採点基準の適切性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください**

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

**5. ICF 項目の説明・表現の修正や採点基準となる評価手法、評点について意見がありましたら、ご提案をお願いします。**

【参考資料】

FIM：食事

採点基準	スコア
自立	7
時間がかかる、自具が必要	6
見守り、指示、準備のみで可能	5
75%以上は自力で可能、少しの介助でできる	4
半分以上ならできる（スプーンにのせてもらえば口に運べる）	3
少しなら自分で食べれる	2
咀嚼、嚥下のみ可能、経管栄養	1

【根拠となる文献】

Prodinger B, O'Connor RJ, Stucki G, Tennant A. :Establishing score equivalence of the Functional Independence Measure motor scale and the Barthel Index, utilising the International Classification of Functioning, Disability and Health and Rasch measurement theory. J Rehabil Med. 2017 May 16;49(5):416-422. doi: 10.2340/16501977-2225.

ICF リファレンスガイド

## **d570 健康に注意すること**

### **1. ICF 項目の説明と採点の目安**

ICF 項目	d570 健康に注意すること (心身の健康を維持するために自己管理する。)
採点の目安	<p>0 問題なし                      問題なく自分でやっている。</p> <p>1 軽度の問題                    他者によるアドバイスや励ましを受けてやっている。</p> <p>2 中等度の問題：                一部（50%未満）を指示下で行っている。</p> <p>3 重度の問題：                   大部分（50%以上）を指示下で行っている。</p> <p>4 完全な問題：                   完全な他者の指示下で行っている、もしくは全く行えていない。</p> <p>※食事・水分の管理、セルフモニタリング、身体活動、適切な受診、服薬管理、に分けて採点し、最も点数が低い項目を採用する。</p>

### **2. 採点の目安の妥当性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください**

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

### **3. ICF 項目の説明・表現の修正や採点基準となる評価手法、評点について意見がありましたら、ご提案をお願いします。**

#### **【根拠となる文献】**

ICF リファレンスガイド

**d610 物品とサービスの入手**

**1. ICF 項目の説明と採点の目安**

ICF 項目	d610 物品とサービスの入手 (日々の生活に必要な物品やサービスを選択して入手し、運搬する。)	
採点の目安	0 問題なし	問題なく自分で行っている。
	1 軽度の問題	他者によるアドバイスやサポートを受けて行っている。
	2 中等度の問題：	一部（50%未満）をサポート下で行っている。
	3 重度の問題：	大部分（50%以上）をサポート下で行っている。
	4 完全な問題：	完全な他者のサポート下で行っている、もしくは全く行えていない。

**2. 採点の目安の妥当性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください**

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

**3. ICF 項目の説明・表現の修正や採点基準となる評価手法，評点について意見がありましたら，ご提案をお願いします。**

**【根拠となる文献】**

なし



## **d620 調理**

### **1. ICF 項目の説明と採点の目安**

ICF 項目	d620 調理 (日常生活に必要な調理を行う。料理を計画し、準備、調理、配膳することを含む。)	
採点の目安	0 問題なし	調理を支援機器や他者のサポートなしに自分でやっている。
	1 軽度の問題	調理を自分でやっているが、困難を伴う、装具や自助具の使用、他者の見守りを要している。
	2 中等度の問題：	調理を自分でやっているが、一部（50%未満）に他者のサポートや代行を要している。
	3 重度の問題：	調理を自分でやっているが、大部分（50%以上）にサポートや代行を要している。
	4 完全な問題：	調理を全く自分で行えていない。

### **2. 採点の目安の妥当性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください**

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

### **3.**

**ICF 項目の説明・表現の修正や採点基準となる評価手法，評点について意見がありましたら，ご提案をお願いします。**

**【根拠となる文献】**

なし

### d630 調理以外の家事

#### 1. ICF 項目の説明と採点の目安

ICF 項目	d630 調理以外の家事 (日常生活に必要な家事(調理を除く)を行う。)	
採点の目安	0 問題なし	調理以外の家事を支援機器や他者のサポートなしに自分でやっている。
	1 軽度の問題	調理以外の家事を自分でやっているが、困難を伴う、装具や自助具の使用、他者の見守りを要している。
	2 中等度の問題：	調理以外の家事を自分でやっているが、一部(50%未満)に他者のサポートや代行を要している。
	3 重度の問題：	調理以外の家事を自分でやっているが、大部分(50%以上)にサポートや代行を要している。
	4 完全な問題：	調理以外の家事を全く自分で行えていない。

#### 2. 採点の目安の妥当性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

#### 3. 採点基準の例

ICF 評点	0	1	2	3	4
Lawton IADL 家事	問題なし	家事を一人でこなすことができるが、重労働などで手助けが必要	皿洗いやベッドの支度など、日常的な仕事はできる	簡単な日常仕事はできるが、妥当な清潔さの基準を保てない	すべての家事に手助けを必要とする/すべての家事にかかわらない

#### 4. 採点基準の適切性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

#### 5. ICF 項目の説明・表現の修正や採点基準となる評価手法、評点について意見がありましたら、ご提案をお願いします。

資料：1 回目の ICF 評価手法の適切性に関するアンケート調査用紙

**【根拠となる文献】**

なし

Lawton, M.P., & Brody, E.M. (1969). Assessment of older people: Self-maintaining and instrumental activities of daily living. *The Gerontologist*, 9(3), 179-186.

---

## d710 基本的な対人関係

### 1. ICF 項目の説明と採点の目安

ICF 項目	d710 基本的な対人関係 (思いやりや経緯を示す、意見を調整するなど適切に人と交流する。)	
採点の目安	0 問題なし	相手への配慮、調整など人との交流を問題なく行っている。
	1 軽度の問題	相手への配慮、意見の調整など人との交流を行っているが、やりとりに時間がかかったり、コミュニケーションエイドの使用をしたりしている。
	2 中等度の問題：	人と交流しているが、相手への配慮、意見の調整などに、時に問題を生じている。
	3 重度の問題：	人と交流しているが、相手への配慮、意見の調整などに、頻繁に問題を生じている。
	4 完全な問題：	相手への配慮、意見の調整などが全く実施できていない

### 2. 採点の目安の妥当性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

### 3. ICF 項目の説明・表現の修正や採点基準となる評価手法、評点について意見がありましたら、ご提案をお願いします。

#### 【根拠となる文献】

ICF リファレンスガイド

## d710 基本的な対人関係

### 1. ICF 項目の説明と採点の目安

ICF 項目	d710 基本的な対人関係 (思いやりや経緯を示す、意見を調整するなど適切に人と交流する。)	
採点の目安	0 問題なし	相手への配慮、調整など人との交流を問題なく行っている。
	1 軽度の問題	相手への配慮、意見の調整など人との交流を行っているが、やりとりに時間がかかったり、コミュニケーションエイドの使用をしたりしている。
	2 中等度の問題：	人と交流しているが、相手への配慮、意見の調整などに、時に問題を生じている。
	3 重度の問題：	人と交流しているが、相手への配慮、意見の調整などに、頻繁に問題を生じている。
	4 完全な問題：	相手への配慮、意見の調整などが全く実施できていない

### 2. 採点の目安の妥当性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

### 3. ICF 項目の説明・表現の修正や採点基準となる評価手法、評点について意見がありましたら、ご提案をお願いします。

#### 【根拠となる文献】

ICF リファレンスガイド

**d760 家族関係**

**1. ICF 項目の説明と採点の目安**

ICF 項目	d760 家族関係 (親や子ども、兄弟、親族と人間関係を作り、維持する。)	
採点の目安	0 問題なし	親や子ども、兄弟、親族との関係を構築・維持することを問題なく行っている。
	1 軽度の問題	親や子ども、兄弟、親族との関係の構築・維持に根本的に影響しない小さな問題が存在する。
	2 中等度の問題：	1と3の間の問題が存在する
	3 重度の問題：	親や子ども、兄弟、親族との関係の構築・維持に根本的に影響する重大な問題が存在する
	4 完全な問題：	親や子ども、兄弟、親族との関係の構築・維持を全く行えていない

**2. 採点の目安の妥当性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください**

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

**3. ICF 項目の説明・表現の修正や採点基準となる評価手法，評点について意見がありましたら，ご提案をお願いします。**

**【根拠となる文献】**

ICF リファレンスガイド

**d920 レクリエーションとレジャー**

**1. ICF 項目の説明と採点の目安**

ICF 項目	d920 レクリエーションとレジャー (娯楽や余暇活動を行う。)	
採点の目安	0 問題なし	趣味活動をその範囲の制限や困難を伴うことなく行っている。
	1 軽度の問題	趣味活動等を行い、実施可能な範囲に制限がないが、何らかの困難を伴っている。
	2 中等度の問題：	趣味活動等を行っているが、趣味活動等をして実施可能な範囲が一部（50%未満）制限されている。
	3 重度の問題：	趣味活動等を行っているが、趣味活動等をして実施可能な範囲が大部分（50%以上）制限されている。
	4 完全な問題：	趣味活動等を全く行えていない。

**2. 採点の目安の妥当性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください**

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

**3. ICF 項目の説明・表現の修正や採点基準となる評価手法、評点について意見がありましたら、ご提案をお願いします。**

**【根拠となる文献】**

ICF リファレンスガイド

**環境因子**

**e310 家族**

**1. ICF 項目の説明と採点の目安**

ICF 項目	e310 家族 (配偶者やパートナー、親、兄弟、子供等との支援と関係。)	
採点の目安	0 問題なし	家族の支援と関係に全く問題がない。
	1 軽度の問題	家族の支援を受けることができるが、根本的に影響しない小さな問題が存在する。
	2 中等度の問題：	1と3の間の問題が存在する。
	3 重度の問題：	家族の支援を受けるのに、根本的に影響をする重大な問題が存在する。
	4 完全な問題：	家族の支援を全く受けることができない。または家族がいない。本人が支援を受けることを完全に拒否している。

**2. 採点の目安の妥当性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください**

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

**3. ICF 項目の説明・表現の修正や採点基準となる評価手法，評点について意見がありましたら，ご提案をお願いします。**



**e315 親族**

**1. ICF 項目の説明と採点の目安**

ICF 項目	e310 家族 (親族 (家族を除く) との支援と関係。)	
採点の目安	0 問題なし	親族の支援を受けることに全く問題がない。
	1 軽度の問題	親族の支援を受けることができるが、根本的に影響しない小さな問題が存在する。
	2 中等度の問題：	1と3の間の問題が存在する。
	3 重度の問題：	親族の支援を受けるのに、根本的に影響をする重大な問題が存在する。
	4 完全な問題：	親族の支援を全く受けることができない。または親族がいない。本人が支援を受けることを完全に拒否している。

**2. 採点の目安の妥当性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください**

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

**3. ICF 項目の説明・表現の修正や採点基準となる評価手法，評点について意見がありましたら，ご提案をお願いします。**

**e320 友人**

**1. ICF 項目の説明と採点の目安**

ICF 項目	e320 友人 (友人との支援と関係。)	
採点の目安	0 問題なし	友人の支援を受けることに全く問題がない。
	1 軽度の問題	友人の支援を受けることができるが、根本的に影響しない小さな問題が存在する。
	2 中等度の問題：	1と3の間の問題が存在する。
	3 重度の問題：	友人の支援を受けるのに、根本的に影響をする重大な問題が存在する。
	4 完全な問題：	友人の支援を全く受けることができない。または友人がいない。または本人が支援を受けることを完全に拒否している。

**2. 採点の目安の妥当性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください**

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

**3. ICF 項目の説明・表現の修正や採点基準となる評価手法，評点について意見がありましたら，ご提案をお願いします。**

**e325 知人・仲間・同僚・コミュニティの成員**

**1. ICF 項目の説明と採点の目安**

ICF 項目	e325 知人・仲間・同僚・コミュニティの成員 (家族や友人以外の知人・仲間・同僚・コミュニティの成員との支援と関係。例えば、民生委員や隣人、町内会の人などを含む。)
採点の目安	<p>0 問題なし 知人・仲間・同僚・コミュニティの成員の支援を受けることに全く問題がない。</p> <p>1 軽度の問題 知人・仲間・同僚・コミュニティの成員の支援を受けることができるが、根本的に影響しない小さな問題が存在する。</p> <p>2 中等度の問題： 1と3の間の問題が存在する。</p> <p>3 重度の問題： 知人・仲間・同僚・コミュニティの成員の支援を受けるのに、根本的に影響をする重大な問題が存在する。</p> <p>4 完全な問題： 知人・仲間・同僚・コミュニティの成員の支援を全く受けることができない。または本人が支援を受けることを完全に拒否している。</p>

**2. 採点の目安の妥当性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください**

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

**3. ICF 項目の説明・表現の修正や採点基準となる評価手法，評点について意見がありましたら，ご提案をお願いします。**

### e340 対人サービス提供者

#### 1. ICF 項目の説明と採点の目安

ICF 項目	e340 対人サービス提供者 (生活を維持するために必要な対人サービスを提供する人々。例えば、介護支援専門員や地域包括支援センターの職員、ヘルパー、ガイドヘルパー、ボランティア、家事代行業者、デイサービス職員など)	
採点の目安	0 問題なし	対人サービス提供者のの支援を受けることに全く問題がない。
	1 軽度の問題	対人サービス提供者の支援を受けることができるが、根本的に影響しない小さな問題が存在する。
	2 中等度の問題：	1と3の間の問題が存在する。
	3 重度の問題：	対人サービス提供者の支援を受けるのに、根本的に影響をする重大な問題が存在する。
	4 完全な問題：	対人サービス提供者の支援を全く受けることができない。または本人が支援を受けることを完全に拒否している。

#### 2. 採点の目安の妥当性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

#### 3. ICF 項目の説明・表現の修正や採点基準となる評価手法，評点について意見がありましたら，ご提案をお願いします。

### e355 保健の専門職

#### 1. ICF 項目の説明と採点の目安

ICF 項目	e355 保健の専門職 (保健制度で働いている医療・福祉サービス提供者。例えば、医師や看護師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、医療ソーシャルワーカーなど)
採点の目安	<p>0 問題なし 保健の専門職の支援を受けることに全く問題がない。</p> <p>1 軽度の問題 保健の専門職の支援を受けることができるが、根本的に影響しない小さな問題が存在する。</p> <p>2 中等度の問題： 1と3の間の問題が存在する。</p> <p>3 重度の問題： 保健の専門職の支援を受けるのに、根本的に影響をする重大な問題が存在する。</p> <p>4 完全な問題： 保健の専門職の支援を全く受けることができない。地域に保健の専門職がない。または、本人が支援を受けることを完全に拒否している。</p>

#### 2. 採点の目安の妥当性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

#### 3. ICF 項目の説明・表現の修正や採点基準となる評価手法、評点について意見がありましたら、ご提案をお願いします。

**e410 家族の態度**

**1. ICF 項目の説明と採点の目安**

ICF 項目	e410 家族の態度 (家族の本人に対する行動や態度)
採点の目安	0 問題なし            家族の態度に全く問題がない。 1 軽度の問題        家族の態度に根本的に影響しない小さな問題が存在する。 2 中等度の問題：    1と3の間の問題が存在する。 3 重度の問題：      家族の態度に根本的に影響をする重大な問題が存在する。 4 完全な問題：      家族の態度が本人を完全に拒絶している。

**2. 採点の目安の妥当性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください**

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

**3. ICF 項目の説明・表現の修正や採点基準となる評価手法，評点について意見がありましたら，ご提案をお願いします。**

**e575 一般的な社会的支援サービス・制度・政策**

**1. ICF 項目の説明と採点の目安**

ICF 項目	e575 一般的な社会的支援サービス・制度・政策 (日常生活が送れるように、買い物や家事、交通、セルフケアなどに支援を提供するサービス、制度、政策。例えば、介護保険サービスや障害福祉サービス、総合支援事業など。)
採点の目安	<p>0 問題なし 一般的な社会的支援サービス・制度・政策に全く問題がない。</p> <p>1 軽度の問題 一般的な社会的支援サービス・制度・政策を受けることができるが、根本的に影響しない小さな問題が存在する。</p> <p>2 中等度の問題： 1と3の間の問題が存在する。</p> <p>3 重度の問題： 一般的な社会的支援サービス・制度・政策を受けるのに、根本的に影響をする重大な問題が存在する。</p> <p>4 完全な問題： 一般的な社会的支援サービス・制度・政策を全く受けることができない。</p>

**2. 採点の目安の妥当性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください**

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

**3. ICF 項目の説明・表現の修正や採点基準となる評価手法，評点について意見がありましたら，ご提案をお願いします。**

**e580 保健サービス・制度・政策**

**1. ICF 項目の説明と採点の目安**

ICF 項目	e580 保健サービス・制度・政策 (健康問題の予防や治療、リハビリテーションの提供。健康的な日常生活が送れることに関するサービス、制度、政策。)
採点の目安	<p>0 問題なし            保健サービス・制度・政策に全く問題がない。</p> <p>1 軽度の問題           保健サービス・制度・政策を受けることができるが、根本的に影響しない小さな問題が存在する。</p> <p>2 中等度の問題：      1と3の間の問題が存在する。</p> <p>3 重度の問題：        保健サービス・制度・政策を受けるのに、根本的に影響をする重大な問題が存在する。</p> <p>4 完全な問題：        保健サービス・制度・政策を全く受けることができない。</p>

**2. 採点の目安の妥当性の評価：下記の当てはまる数値に○を記入してください**

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に不適切			どちらともいえない					非常に適切

**3. ICF 項目の説明・表現の修正や採点基準となる評価手法、評点について意見がありましたら、ご提案をお願いします。**

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

3 週間後に 2 回目の調査を送付いたしますので、ご回答の程、よろしくお願いいたします。